

## 50歳未満の網膜剥離手術治療を受けた患者さんおよびその代諾者の方々へ

2017年2月

研究課題名 「若年者裂孔原性網膜剥離の多施設後ろ向き観察研究」

裂孔原性網膜剥離は、放置すると失明に繋がる疾患であり、基本的には手術治療が必要となります。その罹患年齢は、若年者と50歳以上の壮年期の二峰性のピークを呈します。そして網膜剥離に対する手術術式は、強膜内陥術と硝子体手術の二種類があります。若年者の網膜剥離の場合、手術術式は強膜内陥術を選択するのが一般的でありましたが、近年の硝子体手術の治療技術の進歩により、硝子体手術を選択する割合が増えてきています。しかし、その術式選択は、それぞれの施設、さらには治療医により異なり、術式選択の基準に関するガイドラインはありません。

今回私たちは、今後の医療の向上に役立てるため、2013年4月から2016年12月に若年者(50歳未満)の裂孔原性網膜剥離に行われた治療内容および合併症の発症頻度を各参加施設(病院)に対して調査を行わせていただきます。

本調査では、すべて匿名化された番号(本試験用に新たに発行した番号)を用いて診療録(カルテ)から診療情報を収集させていただきますので、患者さんあるいはその代諾者の方々に新たな検査や診察をお願いするようなご負担はございません。本調査は防衛医科大学校倫理委員会の承認を得て行わせて頂きます。

今回の調査への協力は難しいと思われる患者さんにおかれましては、主治医にご連絡下さいますようお願い申し上げます。主治医より研究代表者に連絡され、該当する資料を確認の上削除致します。また、後で参加の意思を撤回することも可能であります。参加しないことで、患者さんの診察上の不利益が生じることはございませんのでご安心下さい。ご不明な点につきましては、調査責任者までご連絡下さい。

何卒ご了承下さいます様、宜しくお願い申し上げます。

防衛医科大学校眼科学教室

研究責任者 竹内 大

〒359-8513

埼玉県所沢市並木3-2

Tel: 04-2995-1511 (ex. 2333)

Fax: 04-2993-5332

Email: [masatake@ndmc.ac.jp](mailto:masatake@ndmc.ac.jp)